

平成29年度農業技術情報（野菜-4月）

気温の上昇とともに、野菜栽培が本格的に始まり、4月は寒暖の差が大きい時期となります。育苗中は苗の温度管理を徹底し、健苗育成に努めましょう。

■ 排水対策・圃場準備

毎年、局地的な豪雨被害が頻繁に発生していますので、定植前に排水対策をしっかりと行ってください。また、土壌病害対策として土壌消毒やpH調整などを行う場合は、早目に圃場の準備をする必要がありますので、計画的な作業に努めてください。

■ スイカ、メロン

- トンネル栽培では定植期を迎えます。定植一週間前までに、畝にマルチをして地温を上げておきます。苗は、定植直前には15℃前後で管理し、外気に十分慣らしておいてください。
- 初期の生育を順調に経過させ活着を早めるには、マルチの下10cm位のところは地温15℃以上を確保し、定植後3日間程度好天が続くような条件であれば活着もスムーズになります。
- スイカの整枝栽培やトンネル移動式栽培は、定植後一週間程度はトンネルを密閉して35℃位の高温管理をし、活着促進を図ります。活着後は、トンネル内の温度が35℃を超えないように、株元側を2～3cm位開けてこまめに換気します。一番短い子づるが5cm程度まで伸びた頃は雌花分化期にあたるため、12℃以下の低温にあわせないように管理してください。
- メロンの育苗日数は35日前後です。本葉3枚展開時に2葉を残して摘芯し、新芽が伸び始めた頃に定植してください。

■ トマト

- 育苗期に極端な低温に遭うと、低段花房にチャック果、窓あき果などの障害果が発生しますので、夜温は10℃以下にならないよう保温が必要です。育苗期のカルシウム剤の葉面散布も有効です。
- 苗が生長するにしたがい、順次ずらしを行い、徒長苗防止、葉かび病等の発病防止に努めてください。
- 定植は1段花房が1～2花咲いた頃の苗をやや浅植えします。活着を促進するためにマルチ利用に加えてトンネル被覆による保温、または補助暖房の準備を行い、地温15℃以上を確保します。

■ 長期どりアスパラガス

- 雑草対策として萌芽前（雑草発生前～発生始期）にロロックス（除草剤）か、萌芽前～萌芽始期（雑草発生前～雑草4～5葉期）までにセンコル水和剤（除草剤）を散布します。ただし、ロロックスは砂地での使用を避けるようにし、センコルは砂壤土～埴土で用いてください。
- 萌芽20日前頃を目安として、畝間に春施肥を行い軽く中耕し、施肥量は栽植後の経過年数に応じ加減してください。
- 4月から5月の始めにかけては、晩霜による若茎の被害が心配されます。凍霜害による被害が発生したら無駄な養分を消耗させないため、早期に被害茎を地際から除去してください。

■ 夏ネギ

- 育苗日数は、チェーンポット育苗で50～60日間が目安となります。日中の高温、培土の過乾燥に注意してください。葉色が薄い場合は灌水を兼ねて液肥を施用します。
- 定植苗は、草丈15cm、葉数2～2.5葉、葉鞘茎2～3.5mmを目安とします。草丈が20cm以上に伸びた場合は、定植5日前までに15～17cmの長さに剪葉します。
- 定植は、畝幅90～100cm、深さ25cm、溝底25cm程度の溝を作り定植します。

お問合せは 営農支援部 営農支援課（長沢） 018-864-2462 へ